

どき出荷時期を迎えているハウスものの価格は、「無惨」なほど低価格とか。

後継者なしの女房と二人だけの「老いの苦農」になってしまった、この夏。

二人とも息切れる思いを払拭しての頑張りですが、今日も続く。

これからは歳相応に「老い楽の農」を目指したいものである。それもこれも私の決断次第だ、と女房は言う。

この辺で、意を決して、今までひたすらに経営規模の拡大だけを目指し、「前進あるのみ」と突進してきた姿勢を修正し、規模縮小へと方向転換すべき時期なのであろうか。さすれば「老い楽の農」を地で行くがごとく、たまには女房と二人、あるいは老人クラブの仲間たちと共に温泉に浸かりながら、カラオケに興じることも出来ようというもの。

(山形県上山市・農業)

愛媛、無茶々園より

片山 元治

始めまして、私は無茶々園の片山元治と申します。

愛媛の西南部、明浜町で85名の仲間と共に、有機農業でミカン栽培を主宰し、足掛け30年になろうとしています。異常気象が当たり前になってきたこの10年あまり、全園を有機栽培するのがなかなか難しくなってきました。

この度、駐村研究員をやらせて貰うことになり、頑張りたいと思いますので、宜しくお願い致します。

無茶々園は、有機農業を通してムラ作りをやるうとする運動体と位置付けています。私達はこの30年間、何で田舎で生きようとして

いるのか、田舎で生きる良さは何なのか、ズーッと問い続けてきました。

それは、都市と一步距離を置いて、自然の中で大地と共に心を耕し清楚に生きる事だと思いました。つまり、社会インフラを充実して、都市ほど金が取れなくても楽しく生きていける地域社会を作ることです。

農薬は農の薬と思って使っていたものが、命あるもの全ての毒薬である事を知り、その害が遺伝子レベルまで深刻化してきている現状を感じつつ、健康で安心して食べる事の出来る食べ物をどのように作っていくか、食べる人はその価値を本当に感じているのか、毎日考えさせられる日々です。

日本で唯一、まだ現役である急峻な段畑、傾斜地柑橘農業、私達の周りにも、あちこちに荒れたミカン畑が見え始めました。

農家の作った食べ物の半分以上を消費者が直接料理して食べなくなり、市場が集荷機能を失いつつあり、株式会社が簡単に農地の所有が出来るようになり、農協が改革なきは解体、という事態にまで追いこまれ、今や、グローバル化の中で日本農業は行き先を見失い、多くの農家が、子供に後を継がすのを忌み嫌い、農家は元気に生きるための食べ物を生産している尊さを忘れ、安いものばかり作られ、世紀末の体さえも伺えるような時代に入ったという実感です。

そんな中で、息子が、「父ちゃん後を継いでもええぞ」と言った瞬間、「それでこそ男じゃ」とオダテテ農業を継がせてしまいました。可愛い子には苦勞をさせれと昔の偉い人が言いましたが、そんな暢気に構えておってよいものじゃるか、と内心ふと思う時があります。

ある人が、農業の世界に平成の文明開化が起き始めた、と表現しましたが、勤皇の志士になるのか、会津の白虎隊になるのか、本当に紙一重の差ではないでしょうか。いずれにしても、イサギヨク生きれ！アキラメルナ！、というだけです。農業分野ではいろんな常識

が音を立てて大きく変わろうとしています。

私達は農本主義なんていう時代はもう終わったのだと思います。時代は日本の農家にマニアックに生きる事を望んでいるように思います。さもないと離農せよと言ってるように思います。そこで、私達は、日本農業を守れなんて時代遅れな言葉を使うのはやめました。

安い農産物を食べたければ、札束で撥って買った遺伝子組換えの食べ物を食べれば良い。私達の関知しない部分です。安心して食べられるモノがほしいと言う人達に食べてもらえれば良いと思っています。安心は行ったり来たり、親戚付き合いの中にしか存在しないのではないのでしょうか。たとえ、生産工程を開示し、残留農薬を徹底検査したとしても、手にいれる事は出来ないでしょう。命を食べて生きると言う事はそんなことだと思います。

私達は「世界の家族経営を守れ!」、「世界の地域文化を大切にしよう!」を掲げ、食べ物を通して親戚関係になった都市の生活者と市民ビジネスを立上げ、世界中の田舎と事業

連帯をして行こうと思っています。

働いて代価を得る。労働の代価はお金だけではないのです。誰もが働く中で、ボランティア、助け合い、熱い涙、心地よい汗、慈しみ、愛等々、真の教育を学んでいくものだと思います。老若男女みんなで助け合って働く労働、協同労働。協同労働で生きていける田舎。その田舎が世界規模で事業連合、コラボレート出来る地域社会。

そんなコメを追って今日もがんばります。明日も適当にがんばりたいと思います。

私達の代で実現できなければ、息子達が頑張ってくれるでしょう。息子達が出来なければ孫達がやれば良いでしょう。マゴマゴしていたら、10代、20代かかるかもしれません。そう焦っても仕方ないでしょう。

ただ心配なのは、環境ホルモンでダンダン若者の精子の数が少なくなっていることです。

途中で、地球上に人が住めなくなったり、私達の種が滅亡しないことを切に望みながら、今日も元気で、楽しく酒を飲んでおります。

(愛媛県東宇和郡・地域協同組合)

農林水産政策研究所ワークショップ開催のお知らせ

日時：2002年11月26日(火)午後1時半～5時半

場所：農林水産省共用会議室(千代田区霞が関1-3-2)

郵政事業庁舎2F・農林水産政策研究所霞が関分室に隣接

テーマ：「WTO体制下における東アジア農政の新しい潮流」

報告者：当所研究員 白石和良・足立恭一郎

*プログラムの詳細は、決まり次第、ホームページ等でお知らせします。